

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	オーメン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.048	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：オーメン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：エンカウンター

フレアーの幅 インチ

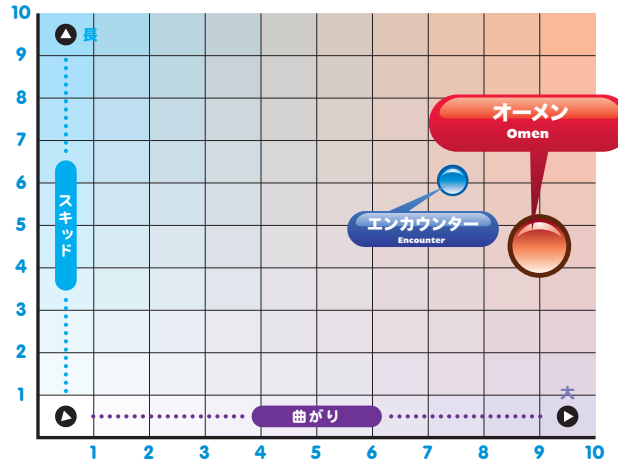
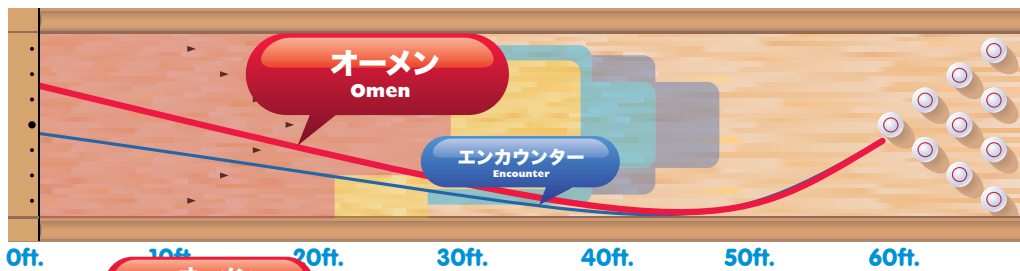
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



ボールの評価

厚いオイルにも弾かれることのないカバーストックと低く重いピンアクション。バックエンドの強さよりもミッドエリアでの曲り始めを意識し、しっかりと軸移動してフィニッシュするコロムビア社”Omen”をご紹介します。

第一印象はキャッチの良さが前面に出ていることでしょう。

表面加工を見ても分かる通り、意図的にフック状態を早める加工工程であり、スキッドのブレーキをかなり意識しています。

その手前の走り具合のイメージは、先月発売されたプレミアムスウィング級のキャッチと同等、ミッドエリアの動き出しはこのOmenのほうが早い動きだしを感じました。全体的なリアクションイメージは立ち上がりの早いストロング・アーク状で、ミッドエリアから向きが変わり始めてから、その弧を保ちながら曲がりきる、今までにはなかった感覚で曲がるイメージに仕上がっています。

驚いたのはテスト投球中、殆どのショットがストライクであったこと。考察するに曲り始めからピンヒットまでブレることのない安定した曲りと、軸移動が完全に向き変った形でのポケットヒットがタップ率を軽減させているように感じます。また曲り始めが早いことでキャリアダウンの影響も少なく、曲り始めから終わりまでの弧が想像しやすいことも「曲りをコントロールする」ための必要条件でしょう。これが今回Omenに求めたコンセプトであり、エンカウンターにもみられる「派手さよりも”実”」を取った性能に仕上がっているというコロムビア社のリアクションの方向性を感じることができます。

心臓部でもあるCapsuleはマスパイアスを用いないSymmetricコアですが、シンプルにレイアウトしても満足いくパフォーマンスが得られるでしょう。

特記事項

早目の軸移動から安定した弧を描いた曲りを実現させているOmen。ポケットに対しての入射角とボールの回転軸とのマッチングがパーフェクトなストライクを演出します。